

partner

6 June 2016

「パートナー」の豊かさを感じてほしい。

Feature;
The beautiful city,
the wonderful garden.

都市の庭園

特集
シンガポール、
緑あふれる
モダンシティ。



竹田城 城下町 ホテルEN

(えん)



天空の城に
見守られる、
築100年の
邸宅。

上/ホテルのエントランス。城下町のメインの通りに面している(左)。貴賓の間(桜)のベッドルーム(左)。かつて、地元の名士や上得意客だけを通した部屋で、ふすま絵にも格式の高さがうかがえる。

「竹田城跡」の眺め。朝霧が立ち込めるタイミングに出会うのは難しいが、四季折々、違った表情を見せる。

最上の
居心地。

兵庫

写真青木倫紀

The
Ultimate
in
Luxury.
‘Takeda Castle Hotel En’
Hyogo

photos by Michinori Aoki





客室（移）の欄間のひとつ。上質さを感じさせる繊細な細工が空間を彩る。右／代々伝わる財宝を保管するための蔵をリノベートした部屋（蔵）。夏は涼しく、冬は暖かい。また防音効果もある。



母屋の玄関の間はそのまま残し、ハイティールの際にウエイティングスペースとして利用。右／2階にある客室（蔵）。ベッドルームと和室を備え、和室には今では技術的に修復不可能な金砂の砂壁が見られる。

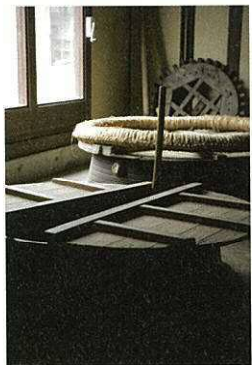


「地元の人たちに愛される日本の宝物」を後世に残していくための場です」

マネージャー・熊南和哉



右／内装はできるだけ当時のままに、しかし快適さを考慮し、床暖房を採用（右）。時季によって替わるウエルカムスイーツは客室で供される（左）。



右／当時の姿そのままに残された母屋玄関の梁（右）。母屋の土間釜場では、竹田名物のどぶろく（ほうすけらっば）の製造などを行っている（左）。

The Ultimate in Luxury.

兵庫県のちょうど真ん中あたりにある「竹田城跡」は、標高353・7mの山頂に位置する石垣遺構で、昨今、テレビCMの舞台にも登場するなど、全国的な知名度はもろろん、海外の人たちにもよく知られた観光地となっている。約400年前に基礎が築かれたといわれ、南北400m、東西100mにもおよぶ規模は、現存する石垣遺構としては屈指のもので、「日本100名城」にも選定されている。しかし、なによりもこの城跡を有名にしたのは、1年のうち2、3度だけ見せる幻想的な姿にある。この周辺では、秋から冬にかけてのよく晴れた早朝に朝霧が発生し、「竹田城跡」が雲海に包まれるのだ。まさに天空に浮かぶ城を思わせる光景は、日本のマチュピチュと呼ばれ、その姿をひと目見ようと多くの人々が訪れている。

建物を通じて歴史と伝統をつなぐ。

「竹田城跡」の東側の麓には城下町が広がっている。室町時代の竹田城の築城とともに発展した城下町は、その後、宿場町として栄え、今でも町屋の残る町並みの景観を保ち続け、かつての竹まいを残している。

ている。

「竹田の町が1年のうちで最もにぎわうのは、秋から冬にかけてです。雲海を見るまで帰らないと数日間滞在される方もいらっしゃいます」と教えてくれるのは、「竹田城 城下町 ホテルEN」のマネージャー・熊南和哉氏。2013年の秋にオープンしたこのホテルは、もともとあった「旧木村酒造」の店舗兼母屋の建物をリノベートして誕生した。

朝来市が所有するこの「旧木村酒造」は城下町のなかでも最も広大な敷地を有し、宿泊施設となった母屋のほか、貯蔵所、舟蔵、米蔵など数軒の古民家がある。そのどれもが明治期に建てられたもので、国の有形文化財にも指定されている。

「市からお話をいただいた際に、築100年以上の建物の姿をできるだけそのまま残しつつ、新しい施設へと生まれ変わらせるといふコンセプトを決めました」と熊南氏。「特に邸宅だった建物をリノベートしたこのホテルは、全4室、いずれも個性的な空間になっています」

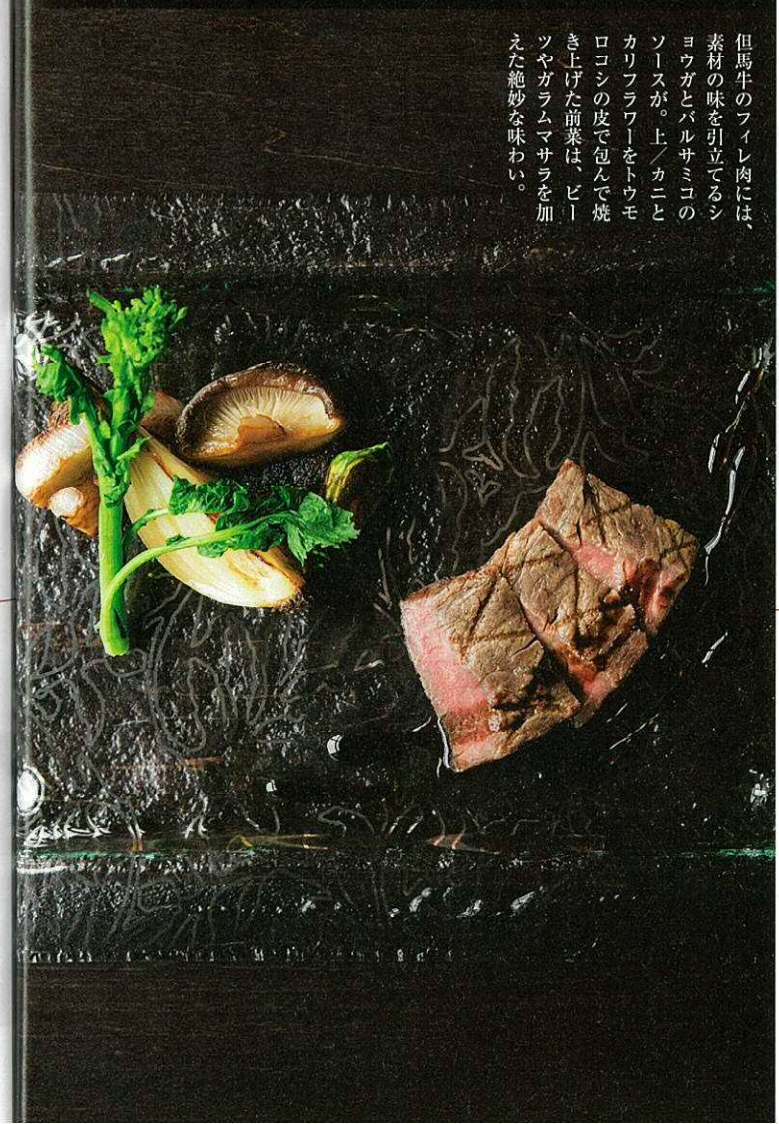
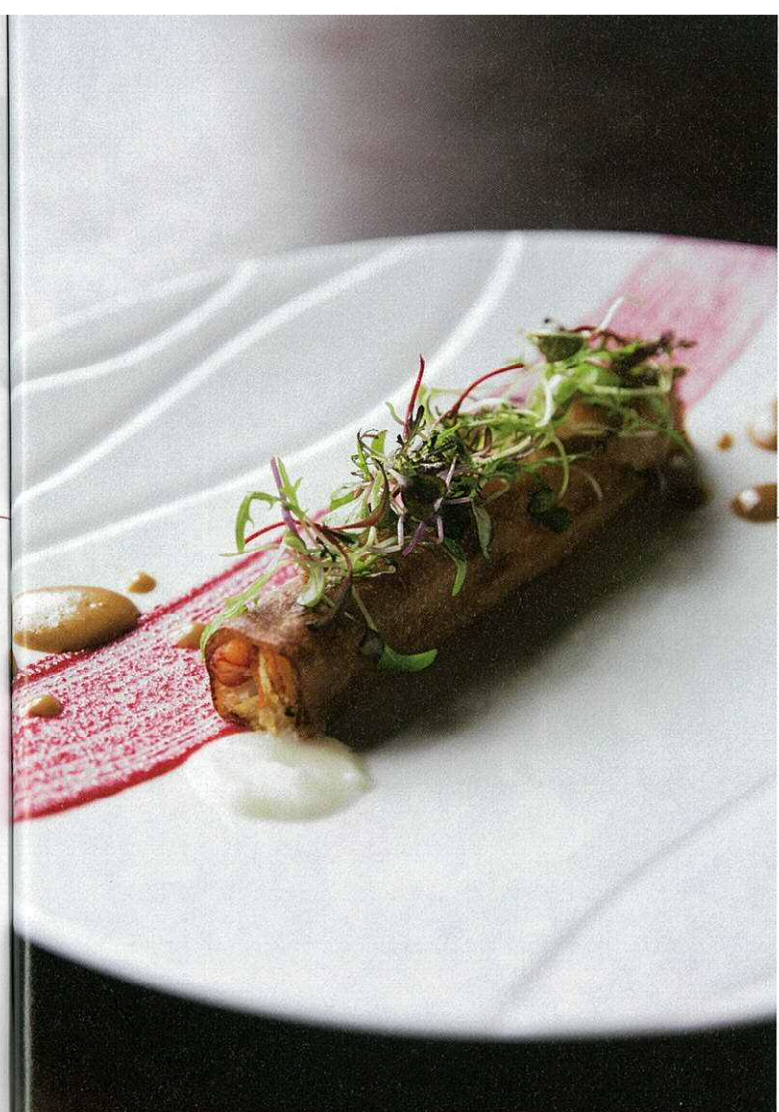
たとえば地元の名士や上得意客だけが招かれたという貴賓の間。朝来市の花である（桜）と名づけられたこの客室には、修復して貼



‘Takeda Castle Hotel En’ Hyogo



かつて廻室を備え、掃りなどを行っていたという発酵蔵。天井が高く、太い梁や柱、土壁や丹波たたきの土間など、昔の趣そのままにフレンチレストランとして生まれ変わった(下も)。



但馬牛のフィレ肉には、素材の味を引立てるシヨウガとバルサミコのソースが。上/カニとカリフラワーをトウモロコシの皮で包んで焼き上げた前菜は、ビーツやガラムマサラを加えた絶妙な味わい。

り直したというふすま絵や欄間などに見事な細工が見られ、格式の高さが息づいているのがわかる。朝来市にゆかりのある、四季それぞれの樹木の名がつけられたほかの3室にもさまざまな特徴がある。(藤)には今では修復不可能といわれる金砂の砂壁が残り、(櫓)はかつて蔵だった頃の面影が随所に見られる。また、(桂)は最もコンパクトながら唯一、窓の外に『竹田城跡』を望むことができる利点も。

「文化財に指定されているため、許可を取らないと建物には一切手を加えられないという不便さはありますが、日本の宝を残していきたいと思っています」

竹田城跡に集まる人々の縁をつなぐ。

宿泊施設のある母屋の西側に立つのが、かつて発酵蔵だった建物で、こちらはフレンチレストランになっている。もちろん、宿泊ゲストの夕食、朝食の場であり、また宿泊せず、食事だけの利用も可能だ。

「食べにいらした皆様に、驚いていただきたいんです。地元の豊富な食材をふんだんに使用した体に優しいフレンチですから、「こん

The Ultimate in Luxury.

下/かつての佇まいを残す中庭では、四季折々の移り変わりが楽しめる(右)。ホテルのロゴ「EN」が染めつけられたのれんがエントランスの目印(左)。



「竹田でフレンチ? いい意味で期待を裏切る料理を目指しています」
シェフ・江口裕二

上/シェフの江口裕二氏。コースは2か月に一度替わる。「つねに体の負担にならないように、コース全体のバランスを考えています」と江口シェフ。

竹田城 城下町 ホテルEN
住所/兵庫県朝来市和田山町竹田字上町西側363番
電話/079-674-0501
客室数/4室
宿泊料金/おひとり様25,000円(1泊2食付2名様利用時、税込サ別) 備考/レストラン11:00~14:00、18:00~21:00(ともにL.O.)
要予約、不定休
アクセス/JR播但線 竹田駅から徒歩約3分。



「Takeda Castle Hotel En」Hyogo

「竹田城跡」を訪れて歴史のロマンに思いを馳せ、そしてここに滞在して、日本の価値を再発見していただきたいと思っています」

南氏。

「竹田城跡」を訪れて歴史のロマンに思いを馳せ、そしてここに滞在して、日本の価値を再発見していただきたいと思っています」

また、敷地内にはホテル、レストラン以外にショップや観光案内所も設けられている。「旧木村酒造」はかつて地元の方たちにとってランドマーク的な存在でした。ですので、リノベートしても変わらず、観光でいらつしゃる方や地元の方たちが集まる場所であり、いろんな方たちの縁をつなぐ存在でありたいと思っています」と熊南氏。

